

常任委員会視察研修報告

総務委員会、産業建設委員会、教育民生委員会の合同による視察研修について報告します。

本年度は、産業建設委員会の主催により、去る11月29日、茨城県行方市のなめがたファーマーズヴィレッジを視察いたしました。

本施設は、少子化により廃校となった小学校をリノベーションしてつくられた体験型農業テーマパークで、行方市、JAなめがた、白ハトグループが一体となって、サツマイモを通して地元の農業を盛り上げようと平成27年秋に開設されました。茨城県は、サツマイモの栽培面積、生産量ともに鹿児島県に次いで全国第2位の産地であり、行方市は東京都心から約70キロ、県庁所在地の水戸市から約40キロに位置しています。東は北浦、西は霞ヶ浦という2つの広い湖に挟まれ、東西の湖岸部分は低地、内陸部は標高30メートル前後の行方大地と言われる丘陵により形成され、なだらかな傾斜のある水はけのよい赤土の畑がサツマイモの栽培に適しているとのことでした。

施設の運営は、大阪府守口市に本社を置く白ハト食品工業株式会社で、もともとサツマイモを通じて行方市と縁があったことから、行方市に生産工場を移し、廃校となった小学校周辺の耕作放棄地を借り上げ、または購入することで敷地を広げ、全体の敷地面積は東京ドーム7個分以上になるといいます。そのため、敷地内には果樹園や畑が広がり、季節ごとにおいしい果物や農作物を楽しむことができます。

また、本施設は1次産業の農業、2次産業の食品加工、3次産業の流通販売サービスなど、生産から加工、販売まで6次産業化し、付加価値をつけての販売に取り組んでいます。やきいもミュージアム、サツマイモ工場、農業体験、手づくり体験教室、レストラン、カフェなどが一堂に結集し、家族や仲間と一日中楽しめる施設となっています。

農業を取り巻く環境は、高齢化や担い手不足による耕作放棄地の増加、イノシシを主とした有害鳥獣による農作物被害により、年々厳しいものがありますが、農業は取り組み次第で楽しく、にぎわいを創出することができるのだということを実感いたしました。また、廃校の活用方法についても大いに勉強になりました。

最後に、今回の視察にあたり、施設を案内していただいた白ハト食品工業株式会社のスタッフの皆様、御宿町議会事務局のお二人には大変お世話になりました。感謝申し上げます。報告といたします。

産業建設委員会委員長、高橋金幹